

# glass工房 ココロイロ

ガラス工芸の作家として作品を作りながら  
様々な技術を生徒さんに教えています

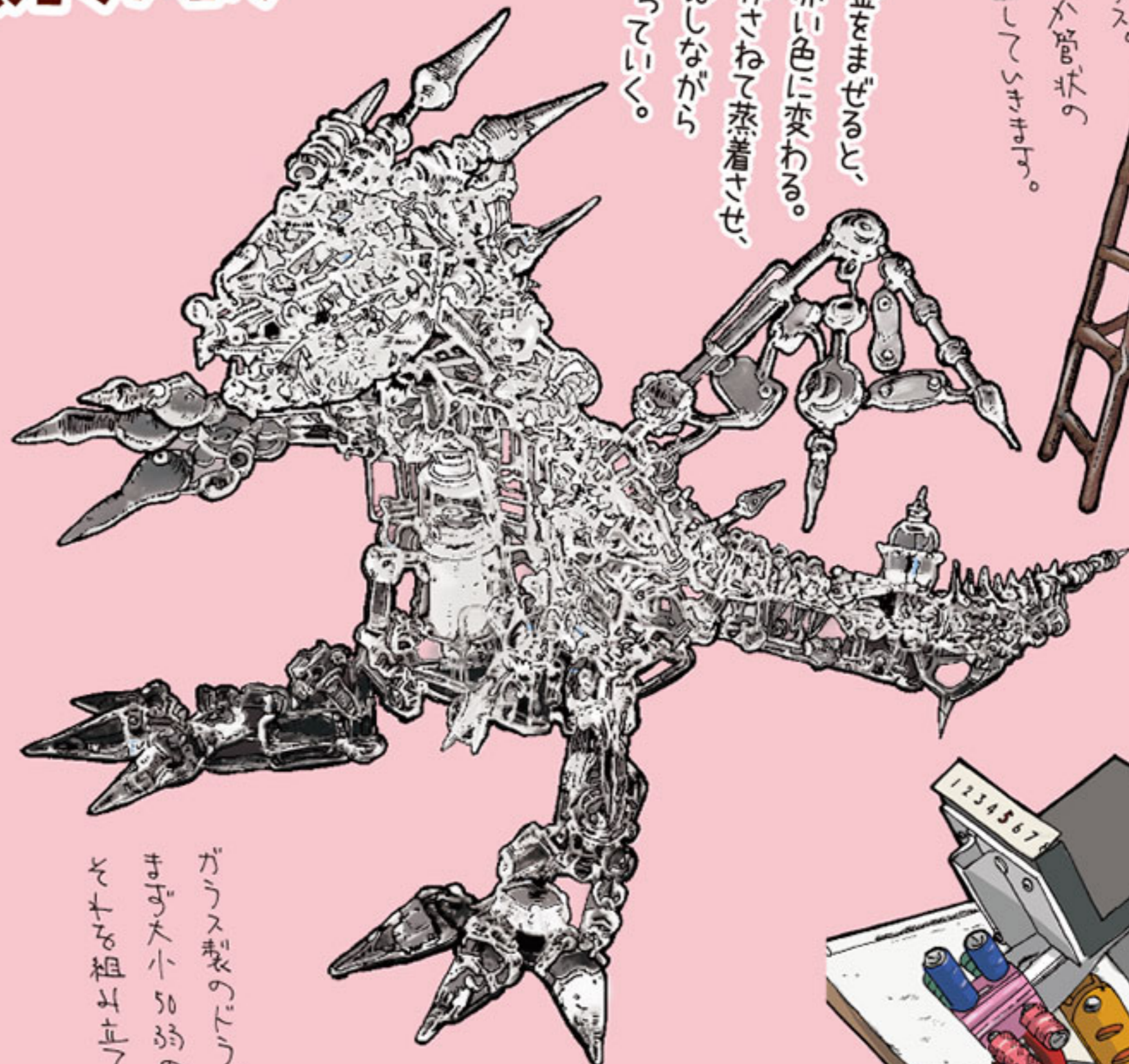
高校時代、テレビでトンボ玉のブームを知ってガラスアートに興味を持ち、大阪芸術大学でガラスを専攻しました。実は、僕の大学にはバーナーワークの授業がなく、教えてもらう先生もいないのでほぼ独学。2年に1度、海外から講師に来ていた外国人講師が、酸素バーナーを使いガラスを溶かしながら作品をつくる「バーナーワーク」を行っていたんです。それを見たことでバーナーワークを知り、興味を持ち、ひとりで試行錯誤しながら技術を身に付けました。

大阪芸術大学の大学院を卒業後も作家としての道に進もうと、友人と工房を設立。2013年に独立し、現在の生野区の工房兼教室をオープンしました。教室ではバーナーワークの技法だけではなく金属やガラス加工など様々な技法も指導しています。オールマイティにできる作家はめずらしいようで、石垣島や香港など遠くからわざわざ習いに来られる生徒さんも。自分自身の作家としての活動も精力的に行いながら、生徒さんにガラスを“みる・つくる・考える・楽しむ”を伝えていきたいと思っています。

使用するガラスは耐熱ガラス。  
大小さまざまな棒状の管状の  
ガラスから加工してSinker。

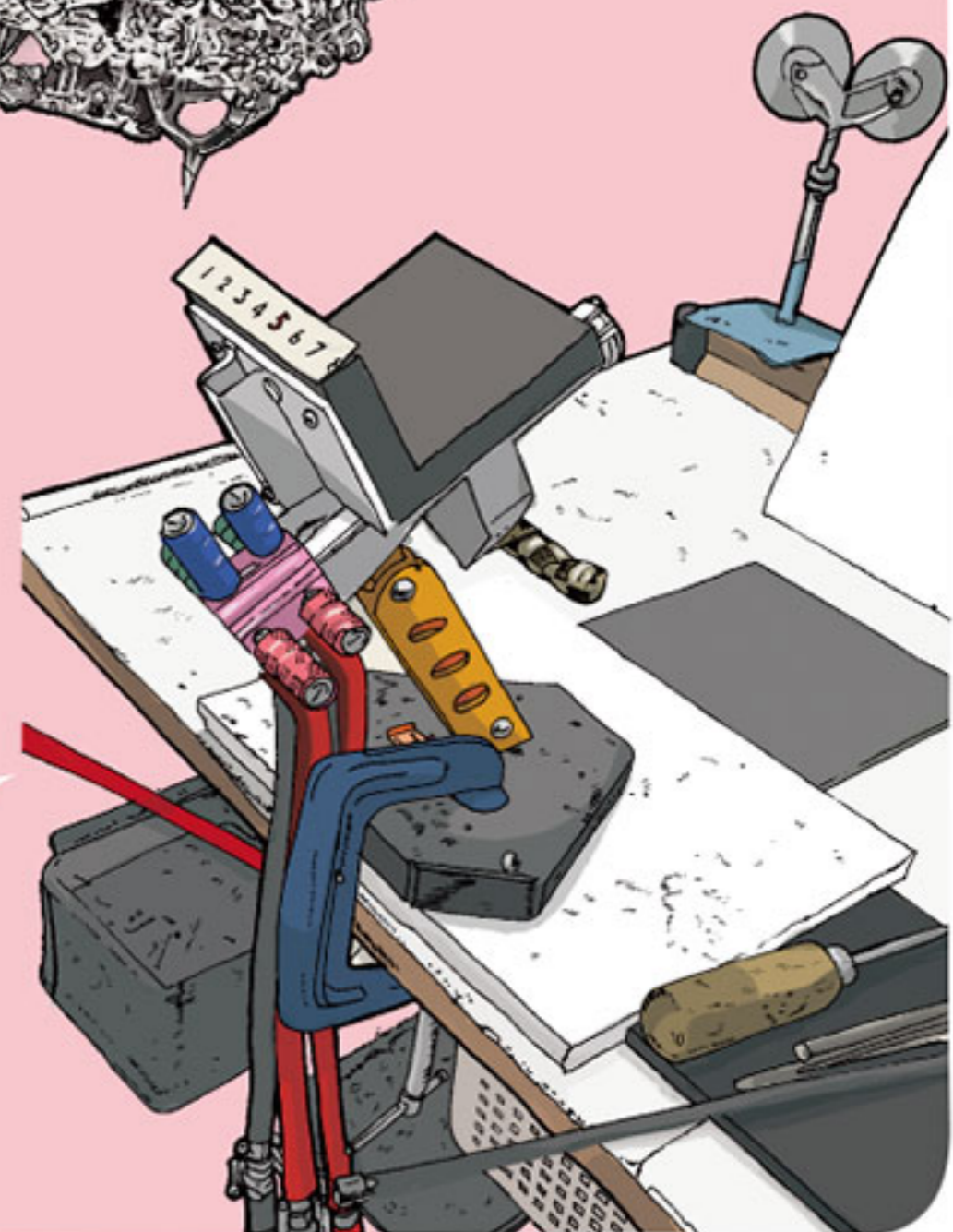


ガラスに金をまぜると、  
ガラスが赤い色に変わる。  
金や銀をかきかきながら蒸着させ、  
それを伸ばしながら  
模様をつくっていく。



ガラス製の下ブロンズは、  
まず大小50分のパーツを作成し、  
それを組み立てて形を作る感じです。

教室ではバーナーワークによるア  
セサリーやガラス細工、吹きガラスによる  
器など様々な技法をレッスン。

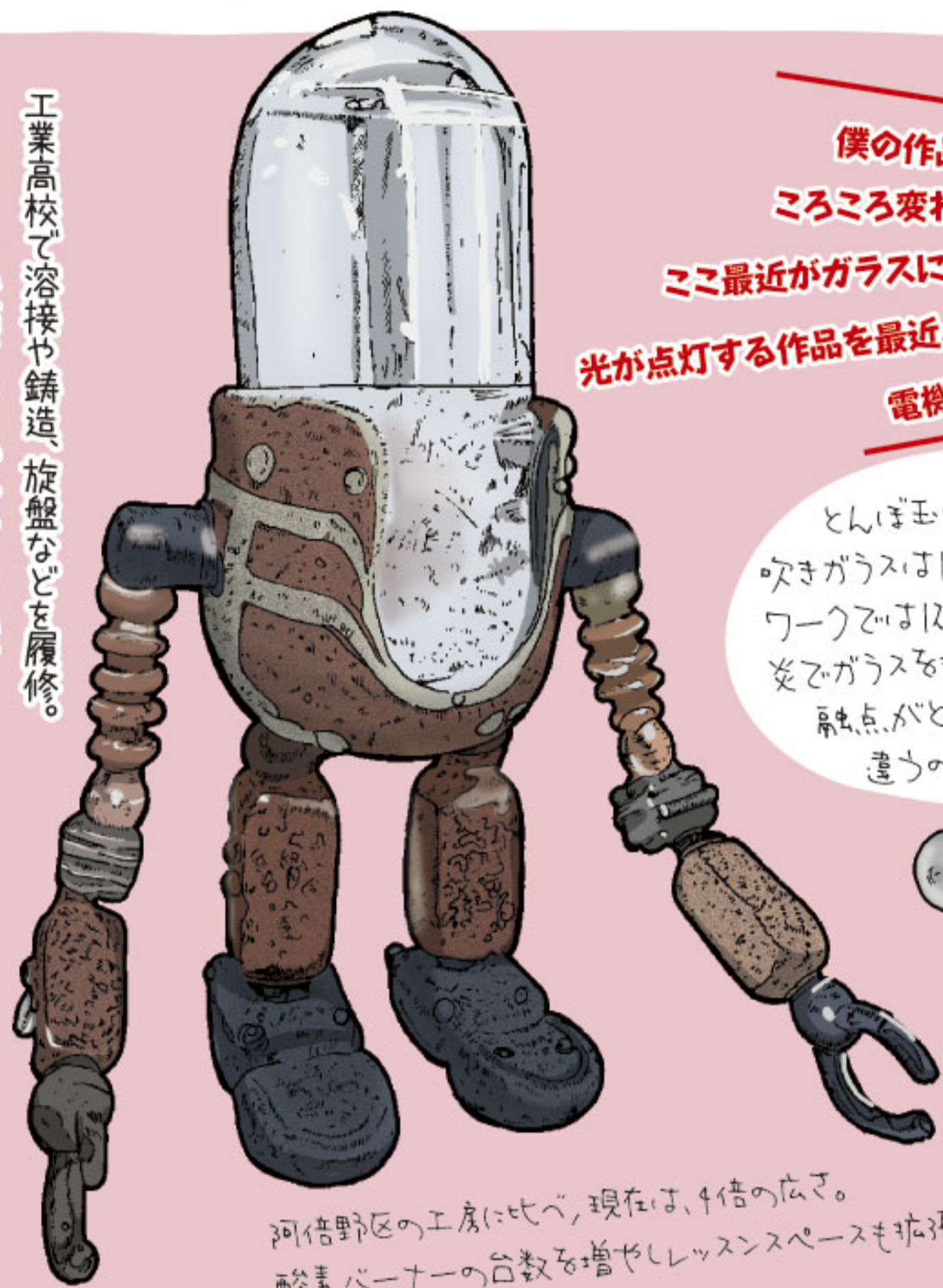


模様が面白い。  
袖口の模様も綺麗。  
ガラスの加工技術も  
素晴らしい。  
工房の雰囲気も  
いい。

代表 新野恭平さん



工業高校で溶接や鋳造、旋盤などを履修。メーカーへの就職を考えず、小さい頃から好きだったもの作りを追求しようと思った。



河内野区の工房に比べ、現在は、4倍の広さ。酸素バーナーの台数を増やしレッスンスペースも拡張できました。

僕の作品のトレンドは、ころころ変わるんです。

ここ最近がガラスに電気回路を加え、光が点灯する作品を最近、多く造ってます。

電機回路も自作です!



現在、教室には約50名の学生が通っています。19歳から79歳までと年齢層は幅広く、遠くは、石垣島や香港から習いに来られた方もいましたよ。

とんぼ玉の溶ける温度は1000℃、吹きガラスは1200℃、それに対しバーナーワークでは1200~2000℃の酸素バーナーの炎でガラスを溶かす。耐熱ガラスは硬い上に融点がとても高く、とんぼ玉とは溶け方が違うので、作業工程もまったく異なる。



酸素バーナーに出合ったのは大学時代。外国人講師が、でっかいゴブレットをガラスで作るのを見て興味を持った。そのあとは独学で勉強し、技術をマスターした。



我が社の  
**自慢**

ガラスのことはもちろん、幅広い制作技術に対応し指導できる

ガラスだけでなく、木を切ったり金属を溶接したり、ガラスにグラインダーで模様をつける切り子、サンドグラス、ろうづけをしたり。強みはこれと限定せず何でもできるのが、僕の強みだと思います。

## 独学でバーナーワーク技術を修得 作家活動と教室運営で魅力を広げる

生野本通商店街に、ガラス張りの窓にガラス製品がずらっと並んだ場所がある。それが、glass工房ココロイロだ。ここでは、ガラス製のアクセサリーや置物を制作し販売する工房、ガラスアートを教える教室を行っている。ココロイロの特徴は、酸素バーナーを使った「バーナーワーク」という手法。酸素バーナーの教室を行っている工房は日本ではまだ少ない。

酸素バーナーはガスと酸素を混ぜ合わせ1200℃~2000℃の高温の炎で作業します。使用するのは耐熱ガラスで、バーナーの火で熱しながら伸ばしたり、曲げたり、ひねったりしながら形を作っていく。耐熱ガラスは熱に強いので、高温での作業が求められる。反面、すぐに冷めて固くなってしまいますので、作業は手早く行わなければならない。

新野さんが手掛けるバーナーワークは、大きく分けて3種類ある。ひとつはアクセサリーの制作。ガラスの中に人工の宝石を閉じ込めたり、ガラスに金や銀を蒸着させ、色鮮やかな宇宙を思わせる模様を描く。「蒸着は、0.1秒で色が変化するため、とても難しい作業なんです」。2つ目は、スカルプチュアと呼ばれるガラス細工。飾り物やディスプレイ用のもので、草花や動物などをピンセットで形作っていく。3つ目はブローというもので、筒状のガラスに息を吹きこみながら形をつくるもの。ガラスを焼いて吹き、焼いて吹きを繰り返す。バーナーワークの魅力について、新野さんは次のように話す。「酸素バーナーの色ガラスは作業時間、炎の強さなど様々な要因で変化します。ガラス細工や器などに組み合わせて自分だけのオリジナルの作品を作り出すことができます。バーナーワークには、まだまだやれることはあるはず。バーナーワークの担い手として、技術を広げるとともに、自分自身の作品も新しいことに挑戦したいです。」

### glass工房 ココロイロ

<https://glass-cocoroiro.jimdo.com/>  
〒544-0024 大阪市生野区生野西4-19-9  
コーポAT7000 1階 TEL 090-5676-6679

事業内容/酸素バーナーによるガラス製のオブジェやアクセサリー、アート作品の制作。ガラス工芸のスクール運営、技術指導